

令和8年度 事業所自衛消防力診断



武蔵野防火管理研究会

武蔵野消防署

はじめに

事業所自衛消防力診断は、各事業所の実態に即した訓練を行うことにより、自己事業所の自衛消防力の現況を把握することで課題を抽出し、自衛消防力の向上及び防火安全意識の高揚を図ることを目的としています。

①

实施概要

1 診断期間等

(1) 日程

令和8年4月13日（月）から令和9年3月12日（金）までの平日で、各事業所が希望する日
なお、他事業所との重複等を避けるため、事前に消防署までお知らせください。

(2) 時間

午前10時00分から15時00分までのうち30分程度

2 実施場所

各事業所

3 診断項目

(1) 火災の確認、119番通報、初期消火、避難誘導、消防用設備等の操作要領等の活動

(2) 自衛消防活動についての口頭試問（活動終了後）

(3) 訓練シナリオ内容

4 診断結果

後日消防署より、診断結果について診断書を交付します。

5 事前訓練

事前訓練は、令和7年度の自衛消防隊力診断に参加していない事業所で事前訓練を希望する事業所を対象とします。

(1) 内容

消防職員が出向し、シナリオの確認、消防用設備等（消火器、屋内消火栓、自動火災設備等）の取扱い要領や各隊員の動きについて指導します。

(2) 事前訓練日程

診断日と併せて調整します。

6 訓練シナリオについて

(1) 次ページ以降に示す訓練シナリオはあくまで例ですので、各事業所の特性に合わせたもので作成していただいて構いません。

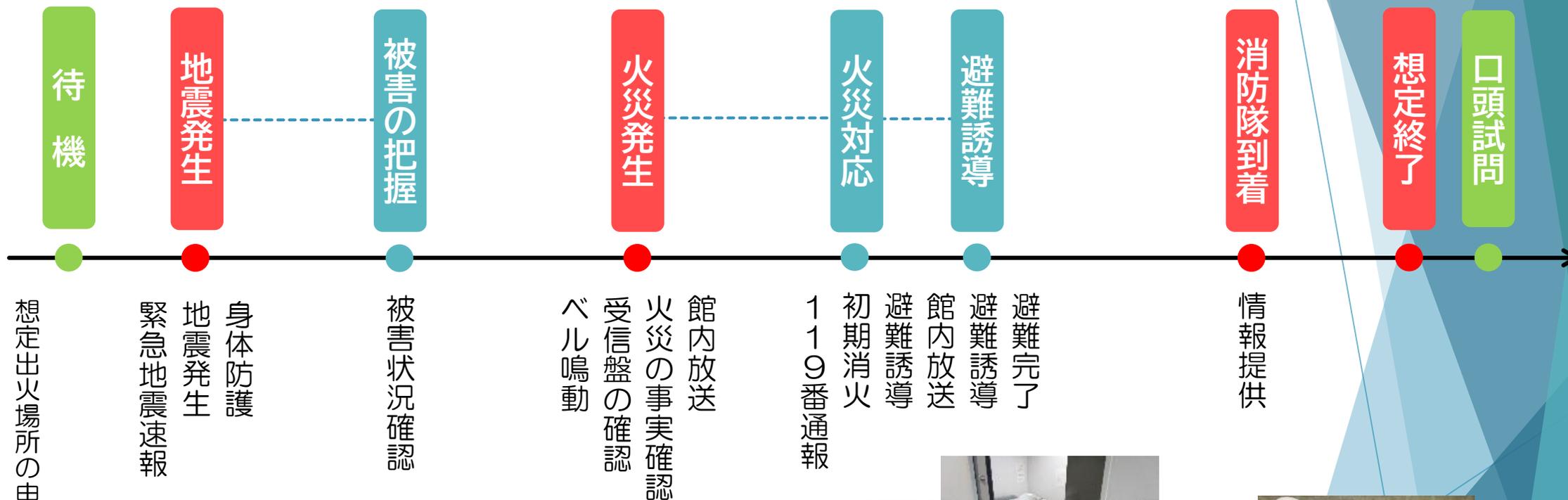
(2) 訓練シナリオの作成にご不明点等ある場合は、消防署にご相談ください。

②

実施要領

訓練シナリオの流れ(例)

(屋内消火栓が設置されている建物の場合)



※ 詳細は、別に示すシナリオ例を参考にしてください。

待機



- 普段の業務を実施してください。
- 係員（消防職員）の合図をお待ちください。

待機



発災



被害の把握



火災確認



火災対応



避難誘導



消防隊到着



想定終了



口頭試問

緊急地震速報

係員

「訓練、緊急地震速報、東京地方の予測震度、6強。到達まで20秒。」



(例)
指揮者「身の安全を図れ！」

指揮者の指示で、身体防護措置をとってください。
※ 地震到達までの20秒間で、最低限、頭を守る姿勢をとってください。

待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

地震発生



待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

指揮者は、隊員のケガの有無等を確認し、被害状況の確認に向かわせる。

セリフはあくまで例ですので、普段皆さんが使っている言葉で結構です。



(例)
指揮者「ケガはないか。」
隊員「ケガなし。」
指揮者「手袋を着けて被害状況の確認に向かい、報告せよ。」

待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

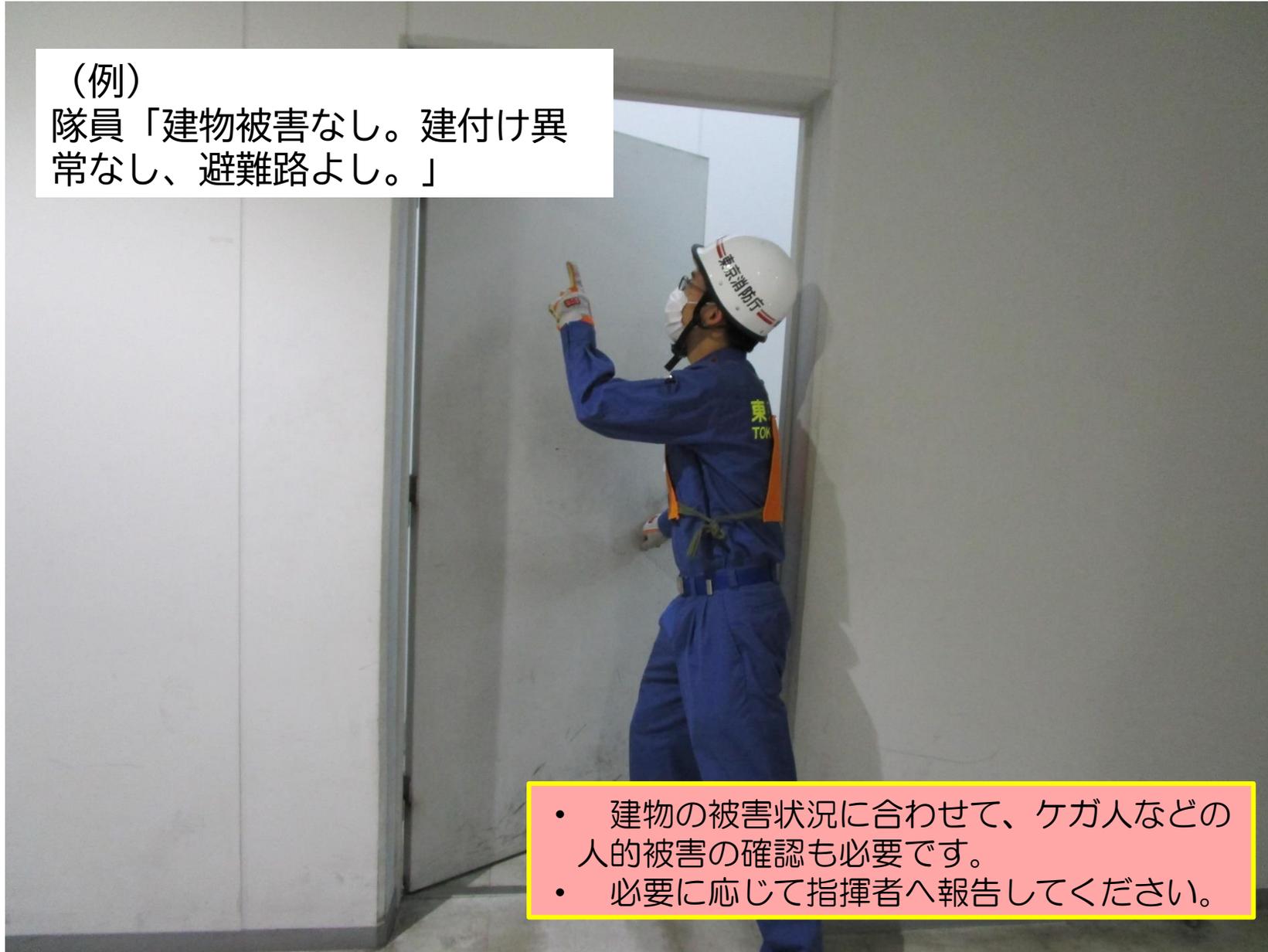
消防隊到着

想定終了

口頭試問

被害状況の確認

(例)
隊員「建物被害なし。建付け異常なし、避難路よし。」



- 建物の被害状況に合わせて、ケガ人などの人的被害の確認も必要です。
- 必要に応じて指揮者へ報告してください。

待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

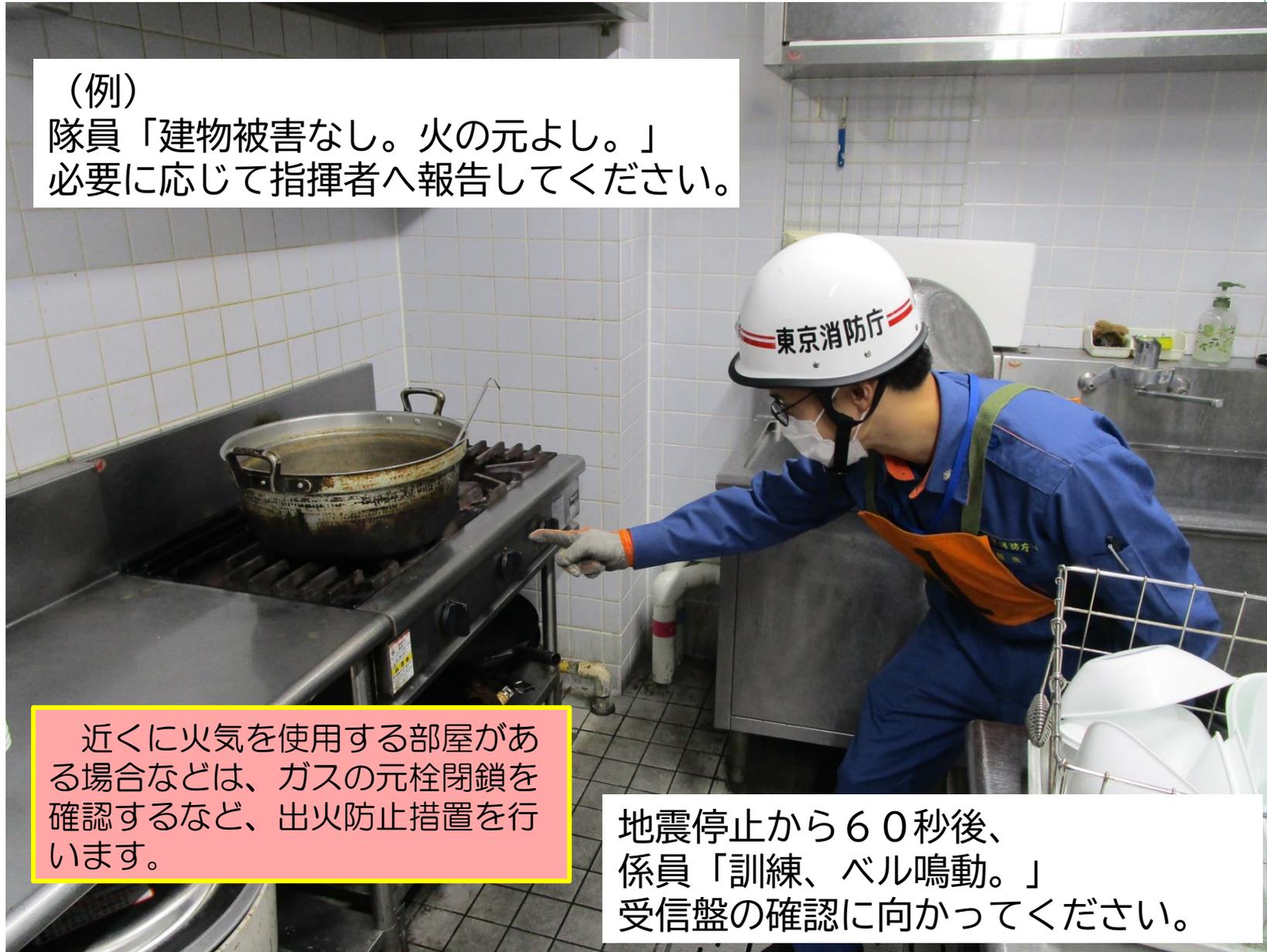
避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

被害状況の確認



待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

自動火災報知器ベル鳴動



係員
「訓練、ベル鳴動。」

(例)
指揮者「ベル鳴動、受信盤確認。」
(指差し呼称で) 「〇階〇〇を表示！」
「警戒区域図で位置確認！」

待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

指揮者による任務付与



(例)
指揮者「1番員（と2番員）は消火器
と必要資器材を搬送し、現場の状況を
確認し報告せよ。」

消火器

【必要資器材】
携帯電話やトランシーバーな
どの連絡用機器、マスター
キー、懐中電灯等

待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

消火器・必要資器材を持ち、現場に向かう



消火器や資器材の落下に気を付けましょう。

待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

火災を発見したら・・・
大声で周囲に知らせる・避難誘導・指揮者へ報告



待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

消火器による初期消火



- 退路を確保します。
- 姿勢を低くします。
- 安全な距離を保ちます。

待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

消火器による初期消火 → 消火器では消火不能

レバーを握って10秒後、
係員「消火不能」

(例)
隊員→指揮者
「消火器による消火不能、屋
内消火栓による消火実施！」



待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

119番通報



待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

屋内消火栓起動



待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

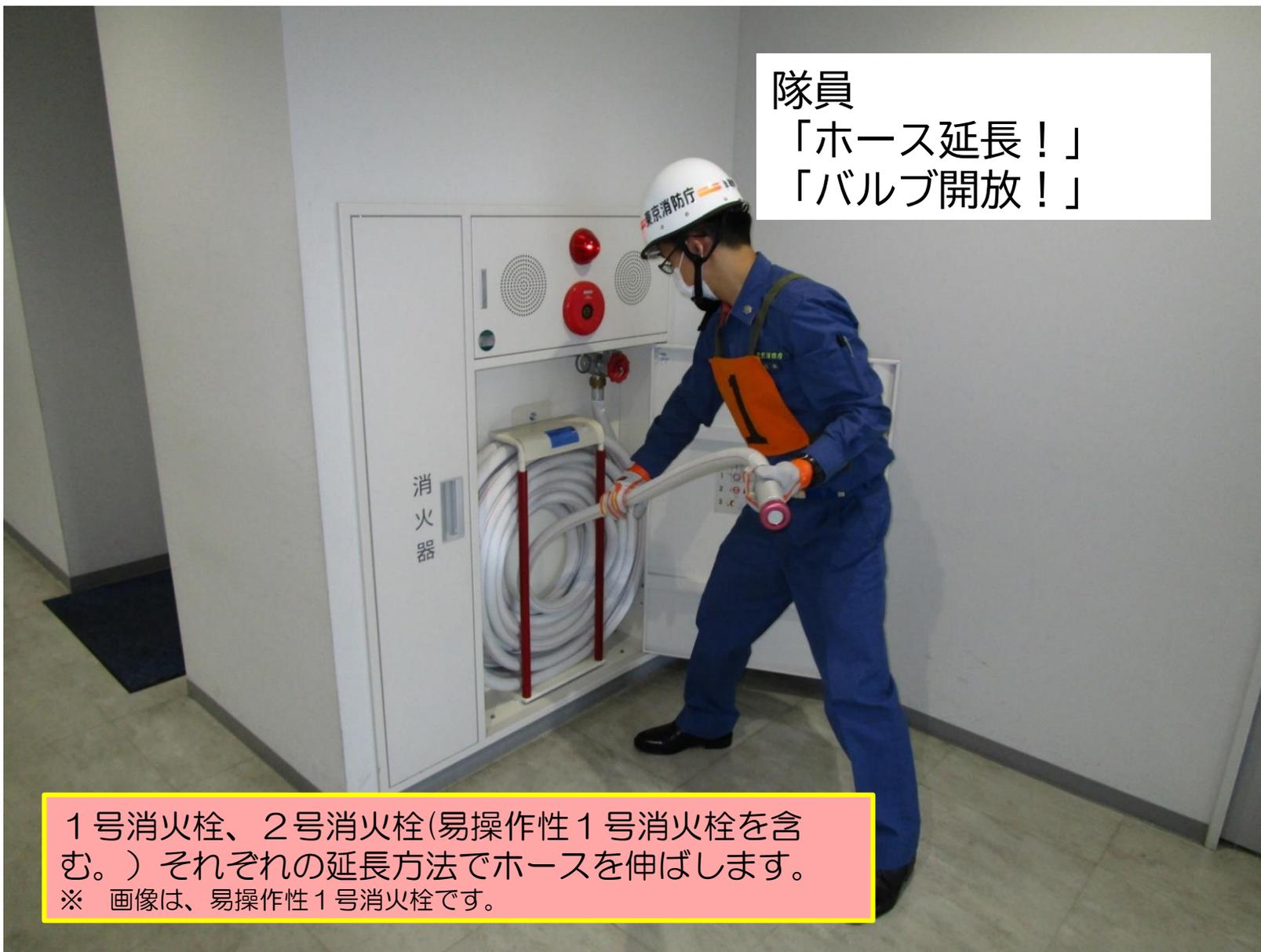
避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

屋内消火栓のホース延長



待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

指揮者へ報告



待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

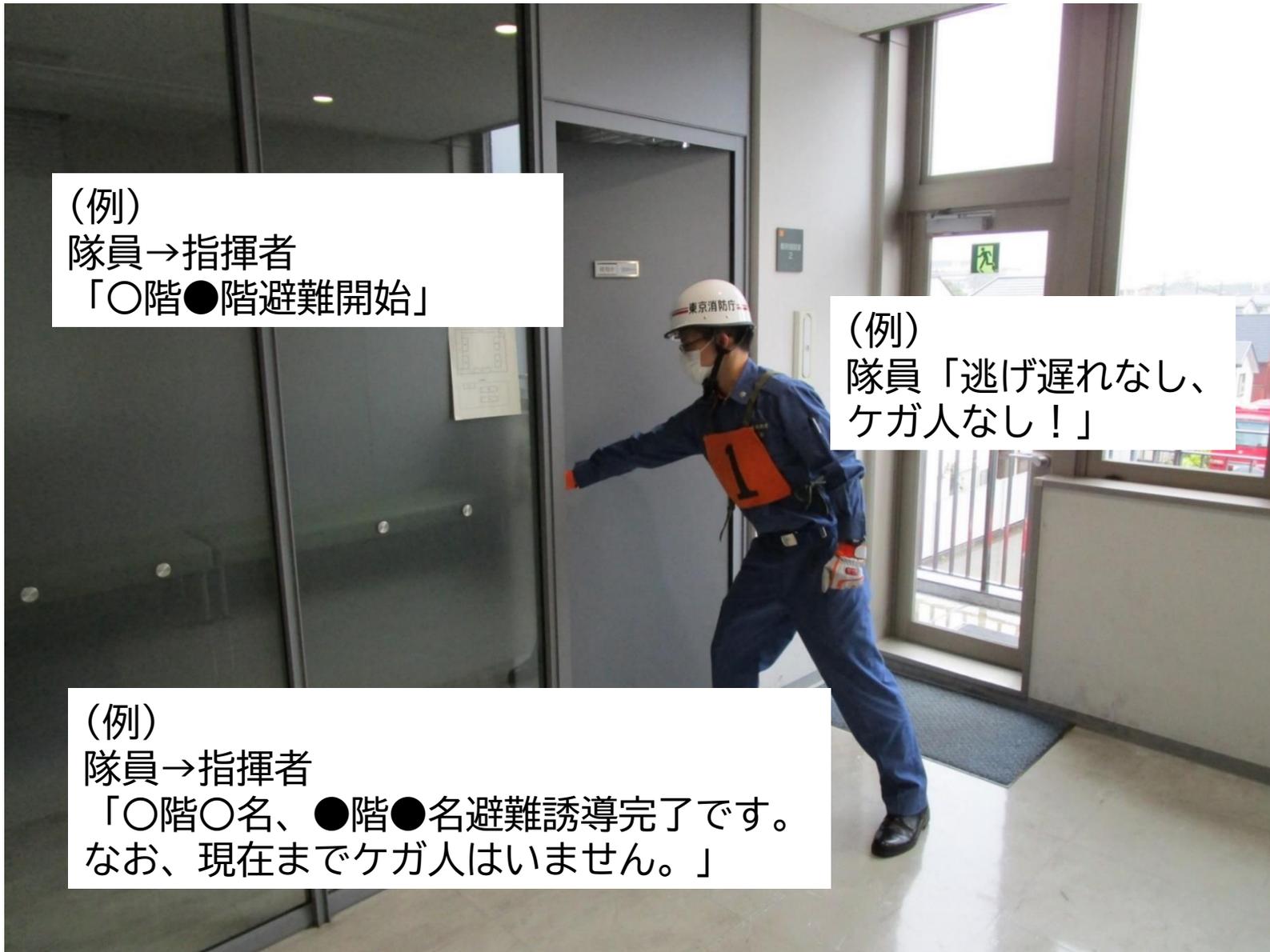
避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

逃げ遅れの確認 各部屋に逃げ遅れがないか確認



待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

消防隊への情報提供の実施（消火、避難状況等の情報）



(例)
指揮者→消防隊（係員）
「〇階〇〇室で●●が燃え、消火器及び屋内消火栓で消火しました。在館者〇名避難誘導完了しました。なお、現在まで、ケガ人はいません。こちらが、名簿及び図面です。」

待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

想定終了



消防隊（係員）への情報提供の完了をもって
係員「想定終了。」

待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

口頭試問



想定終了後、係員から指揮者及び各
隊員に口頭試問を行います。

待機

発災

被害の把握

火災確認

火災対応

避難誘導

消防隊到着

想定終了

口頭試問

口頭試問について

● 目的

自衛消防隊としての正しい知識を習得していただくことを目的としています。

● 口頭試問要領

指揮者、1番員（、2番員）それぞれに、以下の問題から1問出題しますので、回答例を参考に、その場で回答してください。

対象	問題	回答例	参照
指揮者	地震の概要や交通機関などについて収集した情報があります。収集した情報をどうしますか？	<ul style="list-style-type: none">地震の概要や交通機関の運行状況、地震による被害状況などについて正確な情報を収集し、必要に応じて従業員などに伝達災害時には根拠のない情報が出回る可能性があるため、不確かな情報は安易に信用しない。使用できる出入口やトイレなどの建物施設の管理状況についても併せて伝達する。	 ネットで自衛消防 (地震編)
	大きな地震が発生しました。 建物の被害は軽微で建物内で待機が可能です が、徒歩での帰宅を希望する方がいました。 交通機関は停止中で、帰宅ルート の安全も確認できていません。どのよう に対応しますか？ また、その他に留意することは何 ですか？	対応：建物内で待機可能であることから、安全が確認できるまでは建物内で待機してもらう。 留意事項： <ul style="list-style-type: none">勤務している建物に倒壊危険などがある場合は、開設されている避難所などに避難することを検討する。屋外の混乱状況によっては、一時的に敷地内の駐車場など、安全が確認された場所で待機することも考慮する。	
	消防隊へ情報提供する項目を <u>5つ</u> 答えてください。	<ul style="list-style-type: none">出火場所燃えているもの及び延焼範囲の状況けが人の有無及び場所逃げ遅れ者の有無（人数）及び場所避難状況初期消火の状況防火区画構成状況消火設備の使用、作動状況	 ネットで自衛消防 (火災編) 消防隊への情報提供

口頭試問

全ての問題は、【東京消防庁ホームページ>東京消防庁電子学習室>事業所の皆様へ>ネットで自衛消防】から抜粋しています。
参照欄のQRコードを読み取ることで該当ページを閲覧することができます。

対象	問題	回答	参照
1・2番員共通	あなたが自衛消防隊員として避難誘導する際に注意すべき点を <u>1つ</u> 教えてください。	<ul style="list-style-type: none">エレベーターは階の途中で止まってしまう可能性があるため、災害時にはエレベーターは使用しないように誘導する。拡声器、メガホンなどを活用して身振り手振りも併せて行う。階段の入口や通路の曲がり角に立って誘導を行う。	 ネットで自衛消防（地震編）
	地震が起きた後、救助を求めている人を発見しました。資器材を活用すれば救出可能な状態です。どのように行動しますか？	<ul style="list-style-type: none">自衛消防隊長（指揮者など）に知らせるとともに救出可能なときは、周りの人と協力して救出活動を行う。	
	消火器による初期消火の際、安全に消火するための注意点を <u>3つ</u> 教えてください。	<ol style="list-style-type: none">必ず退路を確保し、出口に近い側から消火する。姿勢を低くする。消火器での消火の限界は、炎が天井に届くまで	 ネットで自衛消防（火災編） 消火器による初期消火のポイント
	屋内消火栓のポンプが起動しているかどうかを確認する部分とその状態は？	確認する部分：表示灯 状態：点灯から点滅に変わる	 ネットで自衛消防（火災編） 屋内消火栓設備_使時の注意点は？
	防火戸の役割と日頃の留意事項	役割：煙の流入や炎の拡大を防ぐ扉 留意事項：防火戸を固定しない。扉の前に物を置かない。	 ネットで自衛消防（火災編） 消防用設備などの取扱要領_防火戸って何？

③ 診断のポイント

診断項目

以下の7項目について診断し、指揮者、1番員（、2番員）にそれぞれ得点を付けます。

- ① 初動対応
- ② 通報
- ③ 消火活動
- ④ 避難誘導
- ⑤ 情報管理
- ⑥ 知識（口頭試問）
- ⑦ 習熟度

診断の主な着眼点

- ▶ 安全に配慮した行動をしているか
- ▶ 指揮者の統制のもと、隊の連携が取れているか
- ▶ 指示、伝達、報告などは端的で分かりやすいか
- ▶ 適切な消火活動ができているか
- ▶ 適切な119番通報ができているか
- ▶ 適切な避難誘導ができているか
- ▶ 各種行動の手順は適切に行われているか
- ▶ 各種行動が形式的なものとなっていないか
- ▶ 消防隊（係員）への報告は適切か
- ▶ 自衛消防隊としての知識が備わっているか

④

その他の事項

診断後の評価等について

● 評価方法

実施隊がどれだけ活動できているか診断項目ごとに採点し、評価します。

● 診断書を交付

診断書は、診断項目ごとの採点結果をチャートで示すとともに、消防署からのコメントとして、推奨事項や改善点などを記載します。

令和8年度自衛消防隊訓練診断書 武蔵野消防署

実施日 令和 年〇月〇日 ~ 結果表の発行日 ~

対象隊 〇〇〇自衛消防隊

総合点 ●●点/●●点

総合評価 金賞

自衛消防隊活動技術チャート

※「総合点」について
●●点満点として採点しています。

※「総合評価」について
総合点に応じて金賞、銀賞、銅賞としています。
金賞：●●点以上、銀賞：●●点以上●●点未満、銅賞：●●点以上●●点未満

※「チャート」の発行について
チャートの外側にいくほど、優れた活動であることを示しています。
5つの項目について各項目を5点満点としています。その合計点を総合点としています。

※「消防署からのコメント」について
【推奨事項】に今後も継続して活動に取り入れていただきたい点、【レベルアップのポイント】に今後の活動に取り入れていただきたい点やぜひ記載しています。今後の活動の参考にしてください。

消防署からのコメント

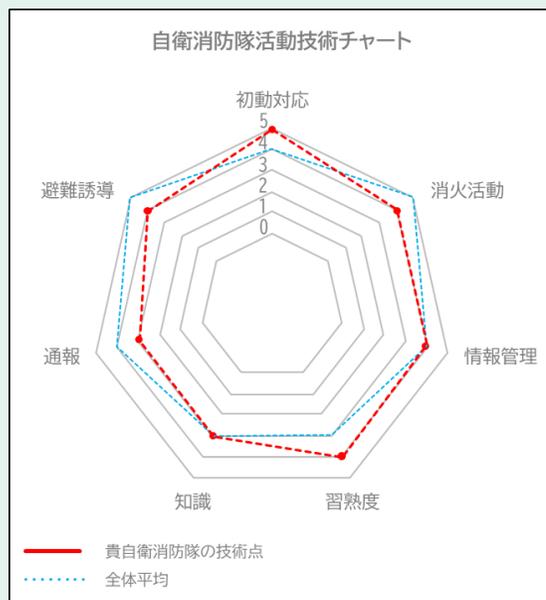
【推奨事項】

- ・ 指揮者を中心に隊の統制が取れていました。
- ・ 火点確認時の姿勢が低く保たれており良好でした。
- ・ 消防隊への情報提供が、正確かつ端的でわかりやすいものでした。

【レベルアップのポイント】

- ・ 活動中に携行資器材を落下させる場面がありました。落下防止措置を講じておくことが必要です。
- ・ 指揮者からの無線での指示に対し、隊員が返答せずに活動していました。実災害では、相互の連携が必須です。返答がない場合、何かあったものとしてその確認も必要になるので、確実に返答し、万が一聞き取れなかった場合は、再度送信をお願いするなど、何かしらの反応をしましょう。

お問合せ先
武蔵野消防署防火管理係
自衛消防隊 〇〇 〇〇
0422-51-0119



消防署からのコメント

【推奨事項】

- ・ 指揮者を中心に隊の統制が取れていました。
- ・ 火点確認時の姿勢が低く保たれており良好でした。
- ・ 消防隊への情報提供が、正確かつ端的でわかりやすいものでした。

【レベルアップのポイント】

- ・ 活動中に携行資器材を落下させる場面がありました。落下防止措置を講じておくことが必要です。
- ・ 指揮者からの無線での指示に対し、隊員が返答せずに活動していました。実災害では、相互の連携が必須です。返答がない場合、何かあったものとしてその確認も必要になるので、確実に返答し、万が一聞き取れなかった場合は、再度送信をお願いするなど、何かしらの反応をしましょう。

※ 画像はイメージです。